

令和5年 11月 13日(月) 3・4年教室 15名 (男子7名 女子8名)

単元名

来てみて布野！ ～伝えたい！布野の自まんを長江小に～

1 PBL(プロジェクト型学習)の考え方を取り入れた探究的な活動【探究活動モデル】

課題の発見

phase① 現実の文脈に沿った課題を発見・設定する。

- ・2年生の時、町たんけんへ行って、布野にはたくさん自慢があることを知ったよね！
- ・『3年生のアスパラを育てること』、『4年生の長江小との交流会をすること』の伝統は引き継ぎたい！」「でも今のままで布野に来たいと思ってくれるのかな？」
 だったら！！ ↓
 『布野に来てもらって、喜んでもらって、また来たい！と思える布野にしよう！
 ～長江小に伝えよう～』

phase② 成果の発表について事前に詳しく示される。

- (日時・相手) 令和5年11月 尾道市立長江小学校(4年生)
 (場所・方法) 尾道市立長江小学校 長江小学校4年生に、布野の良さを伝えて、布野に行きたいと思ってもらえるプレゼンをする。
 (条件) ・長江小の人が、布野に「行きたい！」「楽しい！」「また来たい！」と思っ
 てもらえるような、プレゼン内容にすること。
 ・布野のよさが一目で伝わり、「行きたい！」と思ってもらえるキャッチコ
 ピーを考えること。
 (準備に使える授業時間) 45時間

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら 粘り強く取り組んでいく。

- ① 布野の誇れること、自慢したい場所やものを調べたり、現地調査を行ったりし、情報を収集する。
- ② 紹介したい場所やものが、長江小の人にとって本当に「行きたい！」「楽しい！」等と思ってもらえるものなのか検討する。
- ③ 検討したものが実現可能かどうか、校長先生や地域の方(道の駅、お好み焼き店等)へ確認・提案する。
- ④ 校長先生、地域の方からいただいた意見を参考に、どんな内容をどのように紹介すればよいか考える。(地域の方に作成したリーフレットを置かせてもらったり、スタンプラリーができないかお願いしたりする。)
- ⑤ 長江小の人が「布野に行きたい！食べてみたい！」と思えるプレゼンを作成する。
- ⑥ 布野へ来ての感想を聞くためのアンケート方法を考え、作成する。
- ⑦ 携わっていただいた地域の方や5年生にプレゼン内容を聞いてもらい、いただいた情報を基にプレゼンを修正する。
- ⑧ 布野のよさが一目で伝わり、「行きたい！」「楽しい！」「また来たい！」と思っ
 てもらえるキャッチコピーを考える。【本時】(キャッチコピーは、交流会が終わって校長先生に提案したり、道の駅で飾ってもらえないか提案したりする。)

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

- ・長江小学校との交流会で布野の紹介をする。
- ・活動の一連を振り返り、どんな力がついたかを考え振り返る(作文を書く)ことを通して、自分の成長を実感する。その成長ぶりを、2分の1成人式で披露できないか考え、次の探究に繋げる。

成果の発表

探究の過程を何度も繰り返す



2 布野中学校区が育成を目指す資質・能力と児童観・指導観・単元を構成する問いとのつながり
 本単元で布野中学校区が育成を目指す4つの資質・能力がある。それに対する【児童の実態】を受けて、【指導にあたって】担任が工夫したいことと、【単元を構成する問い】とのつながりを以下のように設定した。

(1) 本単元で布野中学校区が育成を目指す資質・能力

○生きて働く知識と技能

長江小の人との交流に向けて、体験や調べ学習を通して得られた情報を取捨選択したり、既習知識と結び付けたりしながら、課題の解決に活用できる知識及び技能を獲得する。

○調整力

長江小の人に、布野に「行きたい!」「楽しい!」「また来たい!」と思ってもらえるような布野にするために、その目的を意識して話し合い、お互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。

○主体性

長江小の人に、布野に「行きたい!」「楽しい!」「また来たい!」と思ってもらえるような布野にするために、探究的な学習の方法を意識しながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。

○自らへの自信

一連の探究活動を通して、自分ができるようになったことや頑張ったことについて根拠を明確にして振り返ることで、自身の成長を実感し、郷土愛を感じることができる。

(2) 児童の実態

本学級児童は、課題解決のために必要な情報をインターネットで収集したり実際に地域の方へ聞いたりしながら、主体的に活動を進める姿が見られる。また、1学期のアンケートでは、「みんなの意見や他のグループと話をし、良いところは伸ばしてちょっと足りないところは直すというのが楽しい。」と答える児童が多い一方で、「今やっていることが本当にできるかが不安。」と回答している児童もいた。よって、話し合いを進める中で、どうすれば実現可能かどうかを考えながらまとめる力に課題があると考えられる。また、実現できなかったことに対して自己肯定感が低下してしまう児童もいる。

(3) 指導にあたって

PBL の考え方を取り入れた、地域との関わりのある探究活動	道の駅やお好み焼き店等に協力していただきながら、「伝統であるアスパラ栽培と長江小との交流を引き継ぎ、布野を知ってもらいたい」という児童の思いに寄り添えるようにする。児童が目的に沿って意欲的に活動できるよう、交流会までに長江小の児童とzoomでの事前交流を行う。
ルーブリックを活用した評価と評価結果の活用	ルーブリックをもとに、授業中、「友達の考えと繋げて考えているね!」など肯定的な声掛けをしながら形成的評価を行い、資質・能力(4大パワー)が発揮できるように導く。授業後、ルーブリックをもとに4大パワーを発揮していた児童の発言や行動、記述内容を受けて、「実現可能かどうか話し合う姿がありました。」などの評価をする。
対話の工夫	予め各グループのリーダーと本時の流れや困っていること等連携を図ることで、リーダーを中心にグループでの活動を主体的に進められるようにする。また、各グループへ机間指導を行い、単元を貫く問いに沿って話し合いが進められるよう声掛けを行う。

(4) 単元を構成する問い

①本質的な問い(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

私たちは将来に渡って、社会(地域)とどう関わっていけばよいのだろうか。

②単元を貫く問い(単元を通して考え深めていく「問い」)

「行きたい!」「楽しい!」「また来たい!」と思ってもらうには、どんな布野にすればよいだろうか。

3 本単元の目標および評価規準と布野中学校区が育成を目指す資質・能力との関わり

(1) 単元の目標

長江小の人との交流会で布野の紹介をすることを通して、布野に「行きたい!」「楽しい!」「また来たい!」と思ってもらえるようにするためには、布野の誇れることを理解し、地域の方と協力できないか主体的に考えるとともに、郷土愛や自分自身の成長を感じることができる。

(2) 単元の評価規準と布野中学校区が育成を目指す資質・能力との関係性

※【 】は、布野中学校区が育成を目指す資質・能力の中でも、特に関係性が深いと考えられるものを示している。

※phase①～④は、本単元の評価規準を探究的な活動（探究活動モデル）の中の、主にどこで評価しているのかを示している。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 中村憲吉やアスパラ等、布野の誇れることが、伝統として長く引き継がれていることや、布野で働く人は、布野をもっと盛り上げるために工夫していることを理解している。【生きて働く知識と技能】(phase③-②) ② 自分たちが知りたい情報を適切な方法で情報収集している。【生きて働く知識と技能】(phase③-③) ③ 長江小の人が魅力に感じられる布野にしたことは、探究的に学習してきた成果であると気付いている。(phase④)	① 生活科等の今までの学習経験と布野小で引き継がれる伝統とを結び付け、課題を発見し設定している。【調整力】(phase②) ② 課題解決に必要な情報や手段を選択して収集している。(phase③-①) ③ 各グループで考えていることや物がより良いものになるよう、目的に沿った話し合いを行い情報を整理しながら考えている。【調整力】(phase③-⑧) ④ 長江小の人が布野に魅力を感じてもらえるようにするための効果的な表現を工夫し、分かりやすくまとめている。(phase③-⑦)	① 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。【主体性】(phase④) ② 自分の意思をもち、友達と共に課題解決に取り組もうとしている。【主体性】(phase③-⑤) ③ 長江小の人が布野に行きたいと思ってもらえるようにするために、地域の方と関わりながら、自分にできることを考え、取り組もうとしている。(phase③-④)

(3) 布野中学校区が育成を目指す資質・能力の評価規準とルーブリック

布野中学校区が育成を目指す資質・能力の評価規準		ルーブリック		
		A	B	C
生きて働く知識と技能	体験や調べ学習を通して得られた情報を取捨選択したり、既習知識と結び付けたりしながら、課題の解決に活用できる知識及び技能を獲得している。	ゴールに向けて、いろいろな方法で集めた情報の中から必要なことを選んだり、教科横断的に今まで学んだこととつなげたりしている。	ゴールに向けて、いろいろな方法で集めた情報の中から必要なことを選んだり、今まで学んだこととつなげたりしている。	ゴールに向けて地域の人にインタビューしたり、本インターネットで調べたりしながら、必要な情報を集めている。
調整力	目的や進め方を確認しながら、役割を意識して話し合い、お互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。	ゴールに向けて、友達と意見を出し合ったり意見をつなげたりして、実現可能なよりよい考えをまとめている。	ゴールに向けて、友達と意見を出し合ったり意見をつなげたりして、考えをまとめている。	ゴールに向けて、友達と意見を出し合ったり意見をつなげたりしている。

主体性	目的に対して、探究的な学習の方法を意識しながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。	ゴールに向けて、自分に取り組むことを明らかにし、友達と共に見通しをもって進んで取り組もうとしている。	ゴールに向けて、自分に取り組むことを明らかにし、見通しをもって進んで取り組もうとしている。	ゴールに向けて、やりたいことを見つけ、進んで取り組もうとしている。
自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評価にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、ルーブリック評価による一律な評価は行わず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。			

4 本時の展開

11月10日の時点で、長江小との交流会のためのプレゼンの修正が終わっていると仮定する。本時は、キャッチコピーを考え、そのプレゼンに入れる予定であるが、本時の活動が別のものになった場合、その考えに沿うよう、本時の展開に修正を加える。

(1) 本時の目標 【探究活動モデル：phase③の⑧】

各グループで考えていることやキャッチコピーがより良いものになるよう、目的に沿った話し合いを行い情報を整理しながら考える。

(2) 本時の評価規準

各グループで考えていることやキャッチコピーがより良いものになるよう、目的に沿った話し合いを行い情報を整理しながら考えている。(思③【調整力】)

(3) 準備物

付箋、ホワイトボード・マーカー、ピラミッド（思考ツール）、iPad、振り返りシート

(4) 展開 【40/45 時間】

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
	※ [] は、予想される児童の考え		
導 入	(1) 単元を貫く課題を確認すると共に、これまでの学習を振り返り、本時にやるべきことを明確にする。	○単元を貫く課題は、常に教室へ掲示しておく、児童の目に触れられるようにしておく。	
	<u>単元を貫く課題</u> 「行きたい!」「楽しい!」「また来たい!」と思ってもらうには、どんな布野にすればよいだろう。		
	(2) 本時のめあてを立て、意識する資質能力（布野っ子4大パワー）を確認する。	○学習リーダーを中心に、本時のめあてを立て、本時で意識して付けたい資質・能力を確認させたりすることで、積極的に探究できるようにする。	
	<u>本時のめあて</u> 布野らしさが一目で伝わるキャッチコピーは？		

展 開	<p>(3) 今まで考えてきたキャッチコピーを個人で練った後、グループで1つに絞る。</p>	<p>○グループで話し合う前に、個人の思いを整理する時間とることで、話し合いで積極的に意見を出せるようにする。</p> <p>○社会の中で見かけるキャッチコピーを例として掲示することで、悩む児童の手立てになるようにする。</p> <p>○前時に考えた「キャッチコピーを選ぶ条件」 《布野らしさが一目で伝わるか》を再確認させることで、何についてこれから議論するのかを意識できるようにする。</p> <p>○「キャッチコピーを選ぶ条件」に沿っているか確認し、議論しやすくするために、座標軸（思考ツール）を各グループに用意する。</p>	<p>○各グループで考えていることやキャッチコピーがより良いものになるよう、目的に沿った話し合いを行い情報を整理しながら考えている。(思③【調整力】)[発言・行動観察]</p>
	<p>・私は楽しいことがいっぱいある町だから、「たのしい布野」にしたよ。</p> <p>・いいね。でもそれだと、どこの市町も楽しいことありそうだから、もう少し詳しくした方が伝わるんじゃないかな？</p> <p>・ぼくは、3グループが考えてきたテーマを入れて、「短歌名人憲吉とおいしいアスパラとフルーツ じまんがいっぱい布野」にしました。</p> <p>・ぼくも理由は似ていて、「れきし・しぜん・うまいがいっぱい布野」にしたよ。</p>	<p>○グループで一つに絞られていなくてもよいこととする。悩んでいることや、考えていること等も共有させることで、友達と共に課題解決に取り組めるようにする。</p> <p>○キャッチコピーを選ぶ条件に沿って考えていく中で、「布野らしさ」「一目で」に繋がる発言をしている児童には、積極的に評価をしながら、目的に沿った話し合いができるようにする。</p>	<p>○各グループで考えていることやキャッチコピーがより良いものになるよう、目的に沿った話し合いを行い情報を整理しながら考えている。(思③【調整力】)[発言]</p>
ま と め	<p>(5) 自分の思いをまとめる。</p>	<p>○最終的に全体として1つに絞る予定だが、選ばれなかった案や元々の自分の案、話し合いをした結果考えた案など、「自分としてはこれがいい！」という考えをまとめさせることで、個人の思いを大切にします。</p>	

<p>(6) 本時の振り返りを行い、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○資質・能力に対する振り返りを個人で行った後、次時の計画を考えさせることで、主体的に取り組めるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「一言で伝わる」を意識して考えることができました。 ・「布野に行きたい」と思ってもらえるようなキャッチコピーを意識して、一生懸命考えることができました。でも本当にこれでよいか、校長先生にも聞いてもらいたいです。 ・みんなで話し合うことで、よりよいキャッチフレーズを考えることができたと思います。せっかくだから、道の駅にも飾ってもらいたいのので、次はレイアウトも考えてみたいです。 	

(5) 板書計画

めあて
布野らしさが一目で伝わるキャッチコピーは？


【1班】

【2班】

【3班】

〈学習の流れ〉

- ① めあて
4大パワー
- ② 一人で
- ③ グループで
- ④ 全体で
- ⑤ ふり返り



調整力の
カード

A	B	C

キャッチコピー

